

市立伊勢総合病院

○ 業務の概要

市立伊勢総合病院は、二次救急医療をはじめとした地域の中核病院として、市民の健康増進と生活の質の向上を目指し、地域医療の継続発展を図るとともに、公営企業としての効率性を高めるよう努めてきた。

本年度は、伊勢志摩地域の総合診療医を志す若手医師確保に繋げるため、専門研修施設として医学生や総合診療専門医の育成と教育及び研究環境の充実を図ることを目的に、総合診療教育研究センターを設置するなど、地域に必要な急性期機能を担いながら、急性期から回復期・慢性期まで、切れ目のない医療の提供を行うとともに、予防医学に取り組んだ。また、安全・安心で高度な医療を提供するため、関節鏡システム等の整備を行ったほか、診療用画像管理システムの更新を行った。

利用状況は、入院患者数 85,586人（1日平均 234人）、外来患者数 123,579人（1日平均 511人）、健診者数 14,878人（1日平均 54人）となった。前年度と比較すると、入院患者数で 605人、外来患者数で 3,186人、健診者数で 30人それぞれ減少した。

収支状況は、収益的収支において、消費税を除き収入額 8,344,104,980円（対前年度比 1.3%減）に対して、支出額 8,929,719,330円（対前年度比 0.9%減）となり、差引 585,614,350円の純損失となった。また、医師及び看護師奨学金の返還債務の免除により発生した資本剰余金の処分額 27,741,389円を含め、当年度未処理欠損金は 2,796,616,716円となった。前年度と比較すると、収入においては、賃上げ・物価高騰支援に関連した国庫補助金では増収となったが、患者数の減少や診療単価の低下により、入院収益及び外来収益で減収となった。一方、支出においては、給与改定や物価高の影響により給与費及び経費で増額となったが、材料費及び減価償却費では減額となった。

資本的収支においては、収入額 678,401,000円、支出額 1,002,039,836円の執行となった。また、資本的支出において 4,994,000円を翌年度に繰り越した。

今後も、物価高の影響等もあり、厳しい病院経営となることが予測されるが、引き続き、医師確保に努めるとともに、医療体制の充実強化、質の高い医療の提供、地域医療の推進、病院経営の健全化に取り組んでいく。

Ⅰ 職員に関する事項

（各年度3月31日現在）

区 分	医師	医療 技術職	看護職	事務 その他	計	会計年度 任用職員	合計
	人	人	人	人	人	人	人
令和7年度	52	96	241	(1) 27	(1) 416	217	(1) 633
令和6年度	52	(1) 93	(2) 235	(2) 27	(5) 407	211	(5) 618

※（ ）は、外書きで再任用短時間勤務職員を表す。

2 経理の状況

(1) 令和7年度伊勢市病院事業損益計算書

令和7年4月1日から 令和8年3月31日まで			
借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
病院事業費用	円 8,929,719,330	病院事業収益	円 8,344,104,980
医業費用	8,278,548,248	医業収益	6,704,922,752
給与費	4,736,946,130	入院収益	4,747,060,232
材料費	1,444,290,529	外来収益	1,756,250,452
経費	1,429,383,867	他会計負担金	56,658,000
減価償却費	633,636,512	その他医業収益	144,954,068
資産減耗費	661,873	健診収益	384,320,184
研究研修費	33,629,337	健診収益	384,320,184
健診費用	235,087,649	医業外収益	1,225,387,680
給与費	166,206,726	受取利息及び配当金	951,507
材料費	7,660,187	他会計補助金	246,689,080
経費	50,824,816	他会計負担金	480,490,000
減価償却費	10,395,920	県補助金	16,906,000
医業外費用	416,083,433	国庫補助金	152,890,902
支払利息及び 企業債取扱諸費	58,130,132	長期前受金戻入	293,016,236
雑損失	330,029,831	その他医業外収益	34,443,955
負担金	2,348,987	特別利益	29,474,364
医業外雑費	25,574,483	固定資産売却益	29,474,364
		当期純損失	585,614,350
合 計	8,929,719,330	合 計	8,929,719,330

(2) 令和7年度伊勢市病院事業貸借対照表

令和8年3月31日			
借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	円 14,643,788,614	固定負債	円 11,460,735,503
有形固定資産	14,140,958,233	企業債	9,513,777,651
土地	1,567,397,936	建設改良等企業債	9,513,777,651
建物	12,588,711,881	引当金	1,946,957,852
減価償却累計額	△2,410,342,698	退職給付引当金	1,946,957,852
構築物	1,530,514,503	流動負債	1,720,315,843
減価償却累計額	△390,821,632	企業債	539,655,699
器械備品	6,093,174,717	建設改良等企業債	539,655,699
減価償却累計額	△4,840,008,726	未払金	894,946,454
車両	9,507,371	医業未払金	524,403,754
減価償却累計額	△7,175,119	未払消費税	10,953,800
無形固定資産	3,562,685	その他未払金	359,588,900
電話加入権	3,562,685	引当金	283,977,000
投資その他の資産	499,267,696	賞与引当金	237,625,000
長期貸付金	282,848,278	法定福利費引当金	46,352,000
基金	216,419,418	その他流動負債	1,736,690
流動資産	2,292,669,321	預り金	1,736,690
現金預金	956,765,615	繰延収益	1,261,639,528
現金	1,329,000	長期前受金	4,692,066,722
預金	955,436,615	長期前受金収益化累計額	△3,430,427,194
未収金	1,224,781,262	資本金	4,254,000,000
医業未収金	1,196,604,789	剰余金	△1,760,232,939
医業外未収金	20,531,473	資本剰余金	1,036,383,777
その他未収金	7,645,000	受贈財産評価額	140,188,895
貸倒引当金	△95,585,760	他会計補助金	89,845,648
貸倒引当金	△95,585,760	工事負担金	53,395,358
有価証券	149,685,750	寄附金	103,303,100
有価証券	149,685,750	他会計負担金	649,650,776
貯蔵品	57,022,454	欠損金	2,796,616,716
薬品	18,501,893	当年度未処理欠損金	2,796,616,716
診療材料	35,194,767		
その他貯蔵品	3,325,794		
合 計	16,936,457,935	合 計	16,936,457,935

3 病院利用状況 令和7年度

診療科目	入 院	外 来
内 科	人 32,257	人 24,231
循環器内科	7,854	5,997
外科・消化器外科	6,828	7,538
整形外科	23,649	27,246
形成外科	883	3,198
皮膚科	1,617	9,947
泌尿器科	2,469	9,054
婦人科	—	2,396
小児科	—	323
耳鼻いんこう科	—	5,377
眼科	534	5,672
精神科	—	3,958
脳神経外科	—	407
歯科口腔外科	1,052	10,364
放射線科	—	1,721
麻酔科	—	936
脳神経内科	—	4,768
ホスピス科	1,022	2
リハビリテーション科	7,421	444
計	85,586	123,579

4 物品購入に関する事項（金額100万円以上）

購入年月日	器械備品名	規 格	金 額
7. 9.29	デジタル式乳房用X線診断装置	富士フィルムメディカル(株) AMULET ELITE	円 9,790,000
7. 9.29	デジタル式乳房用X線診断装置用 アップグレードライセンス	富士フィルムメディカル(株)	2,750,000
7.12.11	放射線治療計画装置用 Eclipse GPU Workstation Kit	(株)バリアンメディカルシステムズ Eclipse追加オプション	1,430,000
7.12.12	能動型下肢用CPM装置	日本シグマックス(株) ARTROMOT-KI	1,497,100
7.12.25	診療用画像管理システム (動画管理サーバー用ハードウェア)	ニプロバスキュラー(株) Goodnet	17,798,000
7.12.26	ベッドサイドモニタ	日本光電工業(株) PVN-4763	1,870,000
7.12.26	人工呼吸器	日本光電工業(株) HAMILTON-CI	4,928,000
8. 1.21	ビデオ喉頭鏡システム	カールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン(株) C-MAC HD	2,167,000

購入年月日	器械備品名	規格	金額
8. 1.27	待合椅子 (健診センター)	(株)オリバー ラウンジチェア S・SF-H808・AC・N (CL-20F)	円 3,080,000
8. 3. 5	全自動遺伝子解析装置	バイオメリュー・ジャパン(株) FilmArray Torchシステム	7,645,000
8. 3. 9	セントラルモニタ	日本光電工業(株) CNS-2101	17,270,000
8. 3.11	ノートパソコン	(株)日本HP HP 250R G9 Notebook PC	19,027,800
8. 3.12	軽自動車	ダイハツ工業(株) タント L	1,522,390
8. 3.23	超音波画像診断装置	富士フィルムヘルスケア(株) ARIETTA 750 DeepInsight X	16,335,000
8. 3.24	ノートパソコン	(株)日本HP HP 250R G9 Notebook PC	5,285,500
8. 3.31	動画管理システム (連携システム)	富士通Japan(株)	1,320,000
8. 3.31	診療用画像管理システム (画像系サーバー用ハードウェア)	富士フィルムメディカル(株) SYNAPSE・VINCENT・CITA・NEXUS 他	289,300,000
8. 3.31	全自動遺伝子解析装置 (連携システム)	富士通Japan(株)	1,320,000
8. 3.31	関節鏡システム	ジンマー・バイオメット(同) ZEOS4K	19,195,000
8. 3.31	内視鏡システム付属カメラ	カールストルツ・エンドスコピー・ジャパン(株) TIPCAMI Rubina 4K3D 30°	3,465,000

○ 医師確保対策関係

病院事業の健全経営と地域医療体制の確立のため、医師確保対策の1つとして医師奨学金制度を運用し、令和7年度は医師奨学生1人（令和8年度1学年）を新たに選考した。なお、令和7年度卒業の医師奨学生1人は当院に就職した。

＜令和7年度 医師奨学生への奨学金貸与状況＞

学 年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
奨学生人数	1人	1人	2人	1人	0人	2人	7人

その他の取り組みとして、三重大学や藤田医科大学等の関係機関へ訪問のうえ、派遣依頼の働きかけを行った。

また、市健康福祉部と連携して実施している寄附講座・寄附研究部門においては、藤田医科大学との「連携リハビリテーション医学講座」及び三重大学との「南勢地域医療学寄附研究部門」を設置し常勤医師の継続派遣に繋がっている。その他、内科（総合診療科）の後期研修医1人を採用できたことや、初期研修医についても就職説明会への参加や病院見学者の受け入れに努めた結果5人（医師奨学生1人を含む）を採用することができ、若手医師の確保をはじめ安定的な医師の確保に努めた。

○ 地域医療連携関係

Ⅰ 病診・病病連携

紹介患者の予約受付時間を引き続き18時30分まで1時間30分延長し、また、更なる連携強化のため定期的に地域の医療機関等の訪問を行い、紹介患者数の増加に繋げた。

地域医療支援病院の承認の継続に向け、紹介患者数の増加に努めるとともに、地域の医療従事者の質の向上のための研修会をオンライン形式、対面形式、研修動画の配信を併用し開催した。

リハビリテーション科医師・専任の社会福祉士等が大腿骨頸部骨折地域連携パス連携会議（まいわし医療連携会）に出席し、紹介元医療機関及び地域の回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関と連携し、治療経過の共有を行い、患者に切れ目のない質の高い医療を提供した。

<診療所等からの紹介患者数>

区 分	紹介患者数（延べ） 人
令和7年度	11,958
令和6年度	11,794
令和5年度	11,499

2 患者相談

患者相談件数は、令和5年度をピークに減少したが、「身寄りが無い患者への介入及び死亡時の対応」や「患者が介護者であり、その患者が入院することにより介護者が不在となるため、要介護者に介入が必要となるケース」、「独居・老老介護・家族関係希薄・低所得」等の理由により、相談・支援内容が個別複雑化しているケースが増加しているため、相談・支援に要する時間が長時間となる場合もあったが、患者支援センターに社会福祉士5人・看護職員3人を配置し、早期・円滑な相談対応、入退院支援を行った。

<患者相談・支援対応件数>

区 分	在宅復帰	施設入所・転院	入院相談	外来相談	経済的問題	その他	合計
令和7年度	件 4,150	件 4,499	件 781	件 1,434	件 104	件 1,113	件 12,081
令和6年度	4,405	5,628	1,058	1,644	282	2,142	15,159
令和5年度	4,504	6,253	1,316	1,718	334	2,079	16,204

○ 救急医療関係

二次救急医療について、本年度も昨年度に引き続き、週2回の輪番当番日（毎週火曜日及び金曜日・土曜日を隔週で実施）を担うとともに、救急医療の質の向上を図り、伊勢志摩地域の救急医療に貢献した。

<救急患者数>

区 分	救急患者数 人	うち救急車等搬送患者数 人
令和7年度	5,905	3,291

令和6年度	6,224人	3,418人
令和5年度	6,426	3,300

○ 健診・人間ドック関係

各種疾患や生活習慣病の早期発見・早期治療により、地域住民の健康増進の一助となるべく、各健保組合等から受託する人間ドックをはじめ、全国健康保険協会の生活習慣病予防健診や法定健診等を実施した。

本年度も昨年度に引き続き、関連学会等の指針に基づく新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、受診者が安心して健診等を受けていただけるよう最善を尽くした。受診者数は14,878人で、前年度と比較すると30人の減少となった。

健診等の結果が要精密検査や要経過観察の判定となった方には、二次検査（外来診療）の受診案内を行い、疾病の早期治療につながるよう努めた。

1 受診者状況

区 分	開設日数	受 診 者 数			
		人間ドック	健診等	その他	計
令和7年度	278日	7,289人	7,218人	371人	14,878人
令和6年度	282	7,398	7,140	370	14,908
令和5年度	286	7,338	7,222	451	15,011

※人間ドック…胃検査、脳ドックを実施したコース

※健診等…胃検査、脳ドックを実施しなかったコース

※その他…インフルエンザ、破傷風、B型肝炎等ワクチン接種、B型肝炎検査他

2 二次検査受診者数

区 分	受診者数（延べ）
令和7年度	1,407人
令和6年度	1,466
令和5年度	1,602

○ 新型コロナウイルス感染症対策関係

新型コロナウイルス感染症患者の受入など、感染症対策に取り組んだ。また、令和7年7月9日より、一定の基準に基づく対面による面会を再開した。

1 面会制限の実施

・期 間 令和7年4月1日から令和7年7月8日

2 オンライン面会の実施

・期 間 令和7年4月1日から令和8年3月31日

・件 数 92件